



タンカチャン牧師に委託して運営している孤児院の子どもたち。今回も私たちの到着を喜んで、練習してきた歌や踊り、暗唱聖句や劇などで大歓迎してくれました(この様子も東京福音センターFacebookでご覧いただけます)。私たちからも、日本から持ち運んできた古着と、前もってアジア・キッズ・ケアの喜安兄に送ってもらっていた古着を、お菓子と一緒にプレゼント。子どもたちは大喜び！(特に、ジーンズやTシャツが大人気)

35年以上続くの孤児院では、80名ほどの子どもたちを日本の皆様のご支援によって、生活と教育のサポートをしています。巣立った子どもたちの中には牧師になったり、法律家になった者もいます。孤児院の子どもたちは確かに成長しています。彼らの人生は間違いなく変えられています。

<野外集会後> 村の教会など [2/26-28(火-木)]



野外集会を終えた翌日、2月26日(月)の午後5時に、ほぼ半日がかりで、ジャゲイヤベットから、テイルペロールのタンカチャン牧師の教会に戻り、30分だけ休憩し、車で30分ほどの、ところにあるアルンパッカム村の教会に向かいました。7年前にデバラジ牧師が家族で赴任してから、伝道牧会も安定し、昨年のインド伝道の時に、念願の教会堂が完成し、献堂式を行った教会です。今回は、献堂1周年記念の礼拝！にぎやかな音楽隊や聖歌隊の姉妹たちの踊りで歓迎されて(近所迷惑を心配しましたが)、喜びあふれる記念礼拝となりました。バスも1日2便しかない貧しい村の教会ですが、兄弟姉妹たちは聖霊に燃やされています！

翌日2月27日(火)は、孤児院の子どもたちとの楽しい時を与えられた後、ジャゲイヤベットの野外集会で讃美を導いてくれたマーチン牧師と奥様のアニー姉(タンカチャン牧師の長女)が経営し始めた縫製工場“ビューラーガーマント”を視察。インドも社会の変化が激しなり、教会のために、伝道のために、どうすれば良いか、必死で考え模索しながら、行動しています。祝福を祈らせていただきました。その後、タンカチャン牧師の教会シャローム・カテドラルの2階にあるスタジオで、テレビ番組の収録。本当に簡略な機材だけで、ブルーバックならぬグリーンバックの前で、聖書のメッセージを2番組、撮影しました。

そして、2月28日(水)、帰国直前、空港への道中にも、胃がんの信徒の方を訪れ、主キリストの救い、永遠のいのちを語り、癒しを求めてお祈りいたしました。そして、インドから日本へ！

この度のインド伝道のために、数多くの皆様がお祈りくださり、霊的にもご支援くださったことを心から感謝いたします。中には徹夜したり、断食したり、連日の連鎖祈禱に加わって、誰も起きていないであろう真夜中に、遠くインドでの働きのために祈ってくださった方々もおられます。心より感謝を申し上げます。

振り返れば、私が直接インド伝道に関わらせていただくようになったのが1988年。父・万代恒雄牧師の1990年のチェンナイ・マリーナビーチでの毎晩4～5万人を集めた大集会の準備のためにやって来たのが始まりでした。それから30年、ほぼ毎年訪れるようになりました。1994年の恒雄牧師の召天もあり、多くの方々が日本福音宣教会の海外伝道は終わったと思われることでしょう。しかし、主の助けをいただいて、海外伝道の働きは継続されました。集会のサイズは一旦縮小し、貧しいインドの村々を巡って数多くの集会を重ねながら、1998年からは数千人規模の大集会を再開。それが今では、のべ200万人に福音を語り、5000人以上の人々をキリスト信仰に導き、癒された人々の数は数え切れない…と現地の牧師先生方に言われるまでの働きとなってきました。

村々の教会も、50箇所以上開拓してきましたし、孤児院の働きも30年をはるかに超えて継続中です。タンカチャン牧師の教会は、3000人の入る大礼拝堂を持つ教会に成長し、今も躍進を続けています。そして、今年は、1998年の大集会再開の時から、20周年！

私たちのインドでの伝道は、20年も30年も祈り、ささげ、種を蒔き続けてきているのですが、気が付けば実に多くの実を結んでいるのです。涙や汗と共に種を蒔いてきたのですが、確かに多くの種が成長し、実を結んでいます。それは、この働きのために、祈り、ささげてくださった方々がいらっしゃったからです。主の助けがあったからです。

皆様の上に、主キリストの祝福を心よりお祈りいたします。

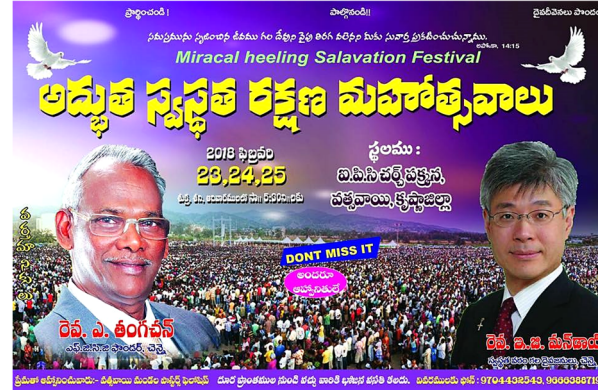
万代栄嗣
まんだい えいじ

累計で200万もの人々が福音を聞いて、救われ、いやされている、この海外伝道の働きに、ぜひご協力ください。

●万代牧師の連絡先＝TEL089-925-1008 Fax089-925-1501
e-mail: gospel@mission.or.jp

●献金先＝郵便振替口座:01610-7-15935
口座名義:松山福音センター

※通信欄に、海外伝道献金、インド支援献金など、ご希望の支援項目をご記入ください。特にご記入のない場合は、すべて通常献金とさせていただきます。



インド伝道報告 2018 (2/20-3/1)

迫害下のインド南部で、唯一、続けられている 外国人説教者による野外集会。決して消してはならない その伝道の炎は、今年も激しく燃えて輝きました！



ヒンドゥー教至上主義を掲げるインドで、多くの教会が閉鎖に追い込まれる中、南部のタミル・ナドゥ州やアンドラ・プラデシュ州の教会の先生方によれば、数年来、この地域では海外からの伝道者による野外集会は開催されておらず、今も行われているのは、ただ一つ、私たち日本福音宣教会の万代栄嗣牧師の集会だけで、このような野外集会が開かれること自体が奇跡だと言われます。

今回の会場は、アンドラ・プラデシュ州ジャゲイヤベットの、人里から遠く離れた広場でした。それはインド当局の監視の目を避けるためでもありましたが、こんな不便な場所に人々はどのようにして集まって来られるか心配するほどでした。しかし、ぼろぼろのバスを何台も借り、オートリキシャ(三輪タクシー)や軽トラックの荷台いっぱいに乗合わせて、続々と人々が集まってきました！初日**1500名**、二日目**2000名**、三日目**3000名**!! 日増しに集まる大会衆の中に、救いといやし、解放と奇跡の御業が豊かに力強く現わされました！人々は来たのです。こんな人里離れた不便な場所に、数千名もの人々が来たのです!! そして、何よりも、そこに、主が来られたのです！救い主、いやし主、イエスさまが来られたのです！

インド南部で今も開かれている最後の野外集会、この火を消してはなりません。愛する兄弟姉妹、皆様の尊い祈りとささげ物は、そのために用いられているのです。心から感謝し、御名をほめたたえます！

野外大集会：救い！いやし！解放！奇跡！ [2/23-25(金～日)]



野外集会では連日連夜、福音が語られ、多くの人々が海
い改めて、キリストを信じ、救われ、いやされました①。

初日、集会前からの激しい胃の痛みが祈りの中で瞬間的
に消えた人、ずっとひどい頭痛に苦しめられていたのが
祈りの中で驚くほどスッキリいやされた女性、体が麻痺
し目も見えにくくなっていたのが急によく見えるよう
になり、さらに手に持っていた杖を取り上げると、実は
杖なしで歩けるように癒されていた男性②など、素晴ら
しい御業が現わされました。

二日目は、いやされてステージで証しされる人々の長蛇
の列！ 腎臓と背中からの痛みが消えた女性、5ヶ月も続いた
腰の痛みが癒しの祈りの中で消えた女性③、首の痛みが
いやされると共に不安・恐れも消えた女性④、夜も眠れ
ないほどの体中の痛みがいやされた女性⑤、何年もの胃
の痛みから瞬時に解放された女性⑥、痛みで動かせなかつた
左腕が自由に動かせるようになった女性⑦、何年も
続いた両足の痛みから解放された男性⑧、5年間の右手
の痛みがいやされた女性⑨、激しい胃の痛みがいやされ

て感激する女性⑩、数ヶ月も悪霊に取り憑かれていたの
が祈りを通して解放されて首の痛みもいやされた女性
⑪、心の弱さを抱えていたけれど集会中に体が震え始
め、祈りの後、それまで感じたことのない平安・力・勇
気が与えられて感激する女性⑫、3年間の頭痛が昨夜の
集会で消えて、その時はまだ信じられず、一日たって間
違いなくいやされたと喜んで証しする女性⑬…と、本当
にたくさんの癒しのみわががなされ、多くの証しが続々と
披露されました。

集会の三日目、最後の夜。9年間苦しんだ甲状腺の痛み
から解放された女性、長年の体の麻痺と目の痛みがいや
されて体中の骨が自由に動く感じですと証しされる女
性⑭、5年間の悪霊による両耳の難聴から解放された男
性⑮、腰の痛みが瞬時に消えた方や、10年間、痛みで動
かせなかった手がいやされた女性⑯…たくさんのいや
し証しが与えられました。また、霊的な現象も顕著で、
悪霊に囚われて、叫んで転げ回っていた人々が何人もそ
の場で解放されました⑰⑱。

2つの教会での聖日礼拝[2/25(日)]



2月25日(日)は、午前に2箇所の教会で礼拝の予定でした。ところが、車で30分と言われていた最初の教会までに2時間以上かかり、午前9時からの礼拝が11時前に。しかし、私たちの到着を待ってドラムとフラワーシャワーで大歓迎してくれました。このサナンサバドゥ村の教会は、約200名の信徒の集う、貧しいけれど喜びに満ちた教会でした。ソロモン牧師は15年前に、私たちがインドで運営する神学校サレム・バイブル・スクールの卒業生でした。新会堂も建設途中。資材不足で工事は中断中でしたが、主キリストからの豊かな祝福をお祈りしました。

2つ目の教会も午前11時からの予定が午後1時になってしまいましたが、大歓迎。ジャゲイヤベットの野外集会場近くの住宅地にある小さな教会ですが、讃美も祈りも活気が溢れていました。この教会のジョセフ牧師も同じ神学校の卒業生。

この2つの教会、ソロモン牧師とジョセフ牧師が、ぜひこの地に野外集会をと、熱い祈りがずっと続けられていたのです。こんな貧しい農村地帯で、いったい人が集まるのかと懸念され、なかなか実現に至りませんでしたが、長年積まれていた祈りは、主に覚えられていたのです。そして今回、祈りは答えられ、ジャゲイヤベットでの野外集会が実現し、思うところ願うところを超えて、多くの人々が導き集められ、救いといやし、力ある神の御業が豊かに現わされたのです。

野外集会裏話

今回、集会の開始も終了も、1～2時間近く遅くなりました。夜8時に会場に到着しても客席はまばらで、ようやく9時をすぎて人々が集まり、9時半過ぎにメッセージが始まり、いやしの証しまで全て終わるのは夜11時すぎ。最終日は、なんと日をまたいで、深夜0時過ぎまで続きました。遠方からバスやトラック、オートリキシャなどで駆けつけるのに時間がかかったこともあったでしょうが、それ以上にインドの農村地帯で時間感覚がゆったりしていて、大部分が農夫で翌朝何時までに出勤という制約もなかったためかもしれません。さらに会場の裏手では炊き出しもしていて、夕食を気にする必要もなく、バスを借りていたので、帰りの便の時間を気にする必要もありませんでしたから。それなのに、時差で3時間半も遅い日本で、ずっと野外集会の同時中継を見ながら(また見なくても)祈ってくださった方々がいらっしやり、そうした祈りに全てが支えられ、守られ、祝福されました。ハレルヤ！

また同時中継された3夜連続の野外集会など、インド伝道の模様は録画されてFacebookの動画コーナーで公開していますので、ぜひご視聴ください。「東京福音センター」で検索！

こちらでご覧いただけます→



<野外集会前> 祈禱会と結婚式 [2/21(水)]



2月20日(火)に日本を発ち、成田空港からインド・ムンバイ(ボンベイ)を経由して国内線でチェンナイ(マドラス)へ。車でティルペロールのタンカチャン牧師の教会に到着したのは、深夜の午前1時前(日本時間では朝4時すぎ)。

2月21日(水)は、午前から午後にかけて、タンカチャン牧師の教会の祈禱室を会場に、このティルペロール地区の関係教会の牧師が集まっての祈禱会。特に明後日からの野外集会の大成功のために、近隣の町や村の教会で頑張っている顔なじみの先生方が集まってこられた中、万代栄嗣牧師のメッセージに燃やされて、熱い祈りの時となりました。

その日の夜は、タンカチャン牧師の教会の兄姉の結婚式。万代牧師のメッセージが語られ、新しいご夫婦の門出が祝福されました。その後、深夜まで披露宴が続き、約2,000名の方々にビリヤニ(インド風炊き込みご飯)とチキンカレーが振舞われました。

礼拝堂内にフォトステージが出現し、新郎新婦と記念写真を撮ろうと長蛇の列。ぜひ万代牧師も一緒にと、記念写真の撮影に加わったりする中、17年前に万代牧師の司式で結婚式をあげたご夫婦が現れて、今もずっと仲良く幸せにしています!とご挨拶に来てくれました。感謝！

<野外集会前> ジャゲイヤベットへ！ [2/22(木)]



2月22日(木)は、いよいよ野外集会会場のジャゲイヤベットへ！朝食後タンカチャン牧師の教会のあるティルペロールから車でチェンナイ空港へ。インドの国内便でアンドラ・プラデシュ州のビジャワダ空港に降り立ち、車でジャゲイヤベットへ。

車内は人と荷物でギュウギュウ詰

め。車で1時間半と聞いていましたが、実際は、3時間半もかかって、ようやく日暮れ前に、ジャゲイヤベットの野外集会場の広場に到着しました。設営中のステージに上がり、地元の牧師先生、信徒の方々と明日からの集会のために熱く祈り合うことができました。この地域のみんがたいに期待しています。祈り終えた頃には、すっかり日は沈んでいました。

それからホテルのある町まで、さらに車で1時間。街中から相当離れた農村地帯。主よ、ここまで人々を導き集めてください！